

令和 3（2021）年 6 月市長及び柏崎市議会の 合同臨時記者会見の概要と質疑応答

令和 3（2021）年 6 月 15 日（火曜日）
午後 5 時～5 時 40 分
柏崎市役所多目的室

1 発表事項

(1) 新型コロナウイルスワクチンの円滑かつ迅速な接種に向けた提言について

(主管：議会事務局)

市民の方の一刻も早いワクチン接種を行うために、市議会の考え、それを取り入れた市の今後のワクチン接種についてご説明します。最初に、真貝議長から市に対する提案などを説明いただき、それを受けて市の今後の方向性などをお話します。

柏崎市議会 真貝議長：市議会は、ワクチン接種が新型コロナウイルス感染症収束のための最大の抑止力であり、収束が最大の景気経済対策になるというお互いの理解の下、5 項目を市長に要望しました。

一つ目は「医療関係者等から最大の協力のもと、商工会議所、企業や職域団体等の理解を得て、早期に集団接種を行うこと」

二つ目は「64 歳以下の接種スケジュールを早期に発表し、接種の実施を推進すること」

三つめは「全国でワクチン接種が進むことにより経済活動も進むことから、異動のための PCR 検査（有料）を市内で受けることができるようにすること」

四つ目は「ファイザー社ワクチンの対象年齢が 16 歳以上から 12 歳以上に拡大されたが、接種は保護者の理解のもと、夏休みの期間の活用など学校生活に支障のないよう検討を進めること」

五つ目は「留学する学生・生徒のワクチン接種は、柔軟に対応すること」

市長からは回答をいただきましたが、議会も市と共に、関係者の皆さんからご協力いただきながら、ワクチン接種をスムーズに進められるように協力していきたいと考えています。

市長：議会と行政が団結して、一刻も早くワクチン接種を終了させるという思いでこのような場を設けさせていただきました。職域接種では、民間の方々からも非常に大きなお力添えを得つつあります。そういった意味で、民・官・議会・市民を挙げて接種に努めたいと考え

ています。

議会からの一つ目の要望に関しては、柏崎市刈羽郡医師会、柏崎市薬剤師会、新潟県看護協会ははじめ多くの関係者の方の多大なご協力により、早期の集団接種などの準備をしています。職域接種に関しては、どうしても民間の方々では力が及ばないという点に関して行政がお手伝いさせていただきます。

二つ目の要望に関して、国・県の指導により 64 歳以下の方は、まず通所の障がい・高齢者施設従事者および障がい児・者施設利用者を、6 月最終週から優先的に接種を開始します。職域接種は、準備が整った事業所から順次 7 月から開始されます。16 歳から 64 歳までの方の接種は、国からは 8 月以降のワクチンの供給が明確に示されていないこと、対象者が約 4 万 4 千人であることから、混乱を避けるため年齢を区切って予約・接種を開始する考えです。60 歳から 64 歳までの方は、7 月後半から接種を開始します。7 月 7 日に接種券を発送し、7 月 12 日から予約開始予定です。その後、16 歳から 59 歳までの方には、7 月中旬に接種券を発送し、7 月下旬から順次予約を受け付けます。12 歳から 16 歳未満の方への接種券発送および接種方法は、国の方針などを見定めた上で別途お知らせします。

三つ目の要望に関して、すでに有料での PCR 検査を受けられるようになっていますが、周知が足りませんでした。柏崎総合医療センターに確認し、感染拡大防止の観点から任意の PCR 検査が実施されていることや、個人単位であれば積極的に利用できる体制が整備されていることが確認できました。改めて周知に努めます。

四つ目の要望に関しては、二つ目の要望への回答と重なるので割愛します。

五つ目の要望に関しては、柏崎市内在住の学生・生徒が外国へ留学する予定がある場合には柔軟に対応します。

(2) 64 歳以下の市民に対する新型コロナウイルスワクチン接種を 6 月下旬から開始します —10 月末までの接種完了を目指します

(主管：健康推進課)

16 歳以上の希望者のワクチン接種は 12 月末までかかると見込んでいましたが、10 月末までの接種完了を目標としました。

16 歳から 64 歳までの市民は約 43,800 人で、12 歳から 15 歳の市民は約 2,600 人です。つまり、10 月末までに約 43,800 人の接種完了を目標としています。12 歳から 15 歳の方は、国の方向性も見定めながらなるべく早く終わらせたいと思っています。

接種期間は 6 月 26 日から 10 月 31 日までです。

接種方法は、市役所旧庁舎での集団接種、柏崎総合医療センター、新潟病院、柏崎厚生病院、柏崎中央病院での病院接種、診療所での接種、職域接種を予定しています。対応する診

療所は、柏崎市刈羽郡医師会と調整中です。職域接種は後ほど詳しくお話しします。

接種の順位は先ほどもお話ししましたが、国・県の指導により 64 歳以下の方はまず通所の障がい・高齢者施設従事者、障がい児・者施設利用者を 6 月最終週から優先的に接種を開始します。

接種券の発送についても先ほどお話ししたとおりです。

接種予約は、対象者が多いことから、混乱を避けるため、まずは 60 歳から 64 歳の方の予約を 7 月 12 日から開始する予定です。その後、59 歳以下の方の予約を 7 月下旬から順次開始します。

次に、職域接種の支援についてお話しします。先日、私が柏崎の主立った企業に直接職域接種の要請をしてきました。結果、ほとんどの企業から前向きに準備を進めていただいています。職域接種は、民間の方々が医師や看護師などの人員を含めてご自分たちで準備することが基本となります。しかし、手が足りない部分やなかなか難しい部分があると思いますので、次のことを柏崎市がお手伝いさせていただくことになりました。

一つ目は、旧市役所を集団接種の空き時間に接種会場として無償提供します。

二つ目は、ワクチンの確保、収受、管理および提供を市が行います。

三つ目は、接種前後の煩瑣な事務処理を市が代行します。

四つ目は、接種に必要な医師や看護師などの医療スタッフを企業・団体だけでは確保できない不足数を支援します。

国は職域接種を千人規模以上と想定していますので、柏崎市も千人規模とみなされるような企業・団体がそれぞれ準備しています。私どももお手伝いさせていただいています。

柏崎市内で一番大きな職域接種は東京電力です。本日、6 月 15 日に東京電力ホールディングスから職域接種を実施する旨のプレスリリースが出されました。場所は、グループの事業所および発電所など。対象者は、グループ社員およびグループ事業所・発電所に勤める協力企業などの社員などの希望者とのことです。

柏崎市立小・中学校の教職員は、夏休み中に接種が終えられるように教育委員会で検討を進めています。

2 質疑応答

記者：昨日要望書を出されて、市が素早く回答したことについての感想を議長に伺いたい。また、内容やスケジュール感などはどのように評価するか。

議長：大変スピーディーに対応していただいたと思っています。内容についても議会が意図するところを十分にくんでいただいたと思っています。

記者：国からは8月以降のワクチンの供給が明確に示されていないとのことだが、10月末までに接種完了ができる確約のようなものが国や県からきているのか。

市長：先般、県の福祉保健部長に10月末までの接種完了という方向性を伝え、7月中のワクチン供給については具体的な数字を挙げていただきました。8月以降についてはいつの段階で何箱くるかは伺えませんでした。国はワクチンの確保はできているということですので、必ずワクチンはくるものと承知しています。

記者：接種の順番として、医療従事者、65歳以上、64歳以下で基礎疾患のある方という区分があったと思う。次は60歳から64歳の方になるということだが、今後は基礎疾患の有無は考慮しないのか。

福祉保健部長：まず障がいの施設に関しては、基礎疾患の中に精神障害や療育手帳などが含まれていますので、障がいの施設に入所されている方は基礎疾患に含まれると理解しています。入所されている方はマスクをすることが難しい方もいらっしゃいますので、先行して施設接種を行うことで、クラスターの発生などを抑えたいと思っています。60歳から64歳の方に関しては、予約の際に自己申告ではありますが基礎疾患の有無を確認することになっています。予約の期間を指定して、同じ年代でも基礎疾患のある方が優先的に予約できるようにします。

記者：7月7日に接種券を発送して7月12日から受け付けるとのことだが、システム上で基礎疾患のある方が先行して予約できるようにするということがよいか。

福祉保健部長：はい、優先的に予約を取っていただけるようになります。

市長：障がいのある方も基礎疾患のある方に含まれますので、その方々は6月下旬から接種に入ります。

記者：予約の取りやすさが重要になると思うが、病院や診療所での接種も含めて、これまでと同様に電話とインターネットで受け付けるという認識でよいか。

市長：はい。年代が現役世代に近い方々ですので、65歳以上の方々に比べると当初の予約の取りづらさ、電話のかかりにくさは解消されるだろうと考えています。

記者：診療所の予約もその認識でよいか。

福祉保健部長：診療所での接種は調整中ですので、先生方の意向も伺いながら最も良い方法を検討したいと思っています。

記者：職域接種に関して、集団接種会場の空き時間を提供することだが、一つの企業の接種にどれぐらいの日数や時間がかかるのか。また、集団接種の空き時間が確保できるような調整はついているのか。

市長：集団接種会場では現在65歳以上の方の接種が進んでいますが、土・日曜は午前9時から始まり午後4時30分の回が最後になります。64歳以下の方々は、昼間はどうしても接種に来られないという方もいらっしゃいますので、朝や夕方に時間帯をずらすなどして、集団接種会場を週に何日かは職域接種のために使っていただくという方法もあると思いますので、検討を進めているところです。東京電力ホールディングスは、それぞれ事業所や発電所で職域接種を行うということですので、市役所旧庁舎をお使いいただくことはありません。

記者：東京電力柏崎刈羽原子力発電所の方の接種に関しては、スタッフの確保なども含めて市の支援は必要ないという理解でよいか。

市長：私どもはそのように理解しています。先般伺った際には、東京電力の職域接種が進むことによって市の医療人材が足りなくなることがないようにと申し上げてきました。

記者：当初の接種完了予定を2カ月前倒ししたことは、65歳以上の接種状況が当初の見込みよりも順調だということも大きく寄与しているのか。

市長：その通りです。予約開始当初や接種開始当初は多くの苦情などをいただいていたのですが、現在は非常にスムーズに進んでいます。議会の方からもさまざまな方にお声掛けいただき、市民の皆さんの理解も進んでいます。加えて、職域接種に多くの民間の方の協力を得られる見込みが立ちそうだということも大きな要因の一つです。

記者：市で設ける職域接種支援班は、企業や団体の調整をする係という位置付けでよいか。

危機管理監：企業・団体の要望に、事務的な部分を含めてお答えするチームです。具体的には、危機管理部、産業振興部、都市整備部の3部で構成しています。